

# 単元名 作る 食べる 生きていく Five star project

令和3年11月9日  
男子22人 女子18人 計40人

【本質的な問い】 全ての人々が安全・安心で豊かに生きていけるようにするために、地球に住む一員として、自分はどう生きていきたいか。

## 1 単元のデザイン

### 本単元の目標

- ア 米を作り、味わったり、食をめぐる問題に対して自分たちができていることを考えたりすることを通して、【学習活動】
- イ 米を始めとする多くの食料は、日本の文化や歴史の中で、それらを支えてきた多くの人の努力や工夫によって生産されてきたことや、食糧不足は、世界の大きな課題であることを理解し、【知識・技能】
- ウ 持続可能な視点から、これからの食の在り方について考えとともに、【論理的思考力・判断力・表現力】
- エ 自らの生活や行動に生かすことができるようにする。【主体性・積極性】

### 単元について

【単元を貫く問い】「食を守り、生きるため、自分たちに何ができるのだろうか。」  
 【探究課題 食をめぐる問題と自分たちの暮らし】  
 日本の食料自給率は先進国の中でも最低の水準で、輸入に頼り切っている現状がある。一方、食品産業や家庭内での食べ残し・賞味期限切れなどに伴う廃棄などは増加傾向にある。国内では担い手不足の結果耕作放棄地が増加している一方で、世界で養うべき人口が増加する中で食料は大幅に不足している。持続可能な形で、誰もが適切な食にアクセスできる社会を、実現していくことについて社会の一員として考えていくことは、自己の生き方を考えることにつながる。「食」に関する問題は、児童にとって最も身近であり、一人一人が持続可能な社会の担い手としての意識を高めるために相応しいものである。また、第5学年では、社会科で日本の産業や食糧生産について、家庭科では、調理について学習し、国語科では、食品ロスについての教材が扱われていることから、学習内容を横断的に関連付けて学習を進めることに適した内容である。

### 児童について

児童意識調査は、以下の結果である。  
 ・身近な問題に対して、自分ができることを考えようとするができる。  
 (肯定的評価 95%)  
 ・教科・領域等で学習した内容や方法を現実の課題に対して活用しようとするができる。  
 (肯定的評価 95%)  
 ・自分の考えを積極的に伝えたり、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫したりすることができる。  
 (肯定的評価 76%)  
 ・総合的な学習を通して、自らの生き方について考えたり、見直したりする。  
 (肯定的評価 84%)  
 ・食に関する現状や問題に対して関心がある。  
 (肯定的評価 100%)  
 児童は、身近な食について関心が高く、教科領域等で学習したことを活用しようとする意欲は高いが、論理的に思考し、表現することにおいて課題がある。また、探究課題の「食をめぐる問題と自分たちの暮らし」を通して、自己の生き方を考え、社会の一員として何をすべきかを考えさせる必要がある。

### 単元を通したパフォーマンス課題

第1次 米を作って収穫しよう。第2次 米作りを通して知った一粒の命の重みを伝えよう。第3次 持続可能な社会に向けて自分たちでできることを実行しよう。

### 指導のポイント

第1次では、前学年で探究した命を守る「防災」と関連付け、命を守り、生きていくためには「食べる」ことが重要であることに気付かせることで、身近な米に着目できるようにする。また、第2次では、第1次での体験や残米の現状から、課題意識をもたせ、目的を明確にして、食べられることへの感謝を伝える方法を自分たちで考えさせる。第3次では、第2次の実行の結果を検証し、小学校だけでなく、自分たちの家庭や地域にも視点を広げ、社会の一員としての役割を考えさせるようにする。本質的な問いへ向け、身近な課題から、社会・世界の課題へと視点を広げていけるように単元やパフォーマンス課題を設計した。

### 習得・活用・探究の過程を位置付けた単元の指導計画（指導と評価の計画）

習得・活用・探究の過程	時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
			知	思	主
【第1次】課題 作ろう！～米作りに挑戦～初めて知った苦労と喜び					
課題設定	1	生きていくために必要な食の大切さに気付き、米作りを行う見通しをもつ。		① ノート	① ノート
情報の収集	3	米作りに必要な資料を集める。	② ロイロノート	② ロイロノート	
整理・分析 <small>まとめ・創造・表現</small>	5	虫、病気、鳥などの問題解決に向けた取り組みを行う。		② 行動観察	② ノート
実行	10	米作りを行い、収穫する。	① 行動観察		
振り返り	1	米作りを通して気付いたことや考えたことを振り返り、新たな課題を設定する。		① ノート	① ノート
【第2次】課題 食べよう～米を味わおう～伝えたい、一粒の命の重み					
課題設定	2	学校の残米の現状を解決するためにどうすればよいか考える。	③ ノート	① ノート	① ノート
情報の収集	5	これまでの体験や情報を持ち寄る。	① ロイロノート	② ロイロノート	
整理・分析 <small>まとめ・創造・表現</small>	5	どのような発表方法が適切か、議論する。		③ ワークシート	
実行	1	学習発表会や朝会等で発表する。		③ ワークシート	
振り返り	2	発表内容についてアンケートを実施し、取り組みの成果を検証する。	③ ワークシート	① ワークシート	③ ワークシート
【第3次】課題 生きていこう～食料の未来を考えよう～自分たちの未来は今自分たちで創る					
課題設定	2	食品ロスの問題は、家庭でも起きていることを知り、課題解決に向けて何ができるか考える。	③ ワークシート	② ワークシート	
情報の収集	2	家庭の食品ロスの現状を調査する。	② ワークシート		
整理・分析 <small>まとめ・創造・表現</small>	5	自分で出来ることについて実施し、結果を交流する。		③ ワークシート	② ワークシート
実行	2	飽食の現状が引き起こす未来についてまとめる。(発表、動画、リーフレット等)		④ 行動・成果物	
振り返り	2	発表、発信する。		④ 行動観察	
振り返り	2	発表、発信後の変化について検証し、自分の考えをまとめる。	③ ノート	① ノート	③ ノート

### 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①米は、日本の文化や歴史、それらを支えてきた多くの人の努力や工夫によって生産されてきたことを理解している。 ②米作りや、食をめぐる問題、小学校や家庭での食事の内容や、食品ロスの実態などの調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 ③自分たちの生活と社会や世界の食をめぐる問題がつながっていることについての理解は、消費者と生産者との関係を探的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①米作りや生産と消費の関係など食が抱える現状や課題と自分たちの生活とを結び付けて問題を見付け出し、課題を明らかにしている。 ②食の現状や未来について考えるために必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③課題解決に向けて、複数の事柄や資料などを観点に合わせて整理したり再構成したりして再構成している。 ④米作りで体験したことや考えたこと、食について調査したことなどを、写真や図、グラフ等を使って、効果的に表し、プレゼンテーションしたり、報告書を作成したりしている。	①課題解決に向け、自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②食をめぐる問題と自分たちの暮らしのかかわりについて、自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働したり、工夫したりして解決しようとしている。 ③持続可能な社会の実現に向けて、自分の生活を見直し、できることを見付け、学びの価値を考えようとしている。

## 2 本時の授業デザイン（本時 35／60）

### （1）本時の目標

伝えたいことが伝わるような発表になるよう、他者の意見を基に自分たちの表現を見直し、改善することができるようにする。【論理的思考力・判断力・表現力】

### （2）本時の学習展開

	学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への手立て ☆生徒指導の三機能につながる手立て	○評価規準（評価方法）
課題の設定	1 課題を設定する。  めあての例 よりよい発表にするためには、どうすればよいだろうか。	◇ 学習過程を示し、第2次のパフォーマンス課題を確認して本時の課題を設定する。	
情報の収集  整理・分析	2 他グループから評価された意見を 確認する。 ・よかった点・改善点 (他グループの改善点の採用の視点) ①最も伝えたいこと(食べられること への感謝をもつ)が伝わる表現にな っているか。 ②伝えたい相手(低学年)により伝わ る表現になっているか。 3 他グループからの意見の中で採用 すること、自分たちの発表に生かすこ と、自分たちの発表で改善すべきこと についてグループで話し合う。 4 話し合ったことを発表する。	◇ 他のグループの意見について、目的に照らして採用 したいものを選択し、なぜその意見を採用したいのか 理由を明確にすることで、視点に照らして思考するよ さを味わわせる。 ◆ 改善点の意見の中から1つ選択させ、視点に合うか どうかを考えるよう助言する。 ☆【自己決定】グループ活動前に、自己選択場面を設定 することで、自己決定の気持ちをもつことができるよ うにする。 ◇ 意見の共通点を出し合い、整理するという手順を確認 し、具体的な改善案を決定することが話し合いのゴ ールであることを確認して、活動を進めるようにする。  ◇各グループからの発表から、共通点を整理し、課題解 決のまとめに繋がるようにする。 ☆【自己存在感】自らの考えを交流し、お互いの考えを 認め合うことで自己存在感をもつことができるように する。	
まとめ  振り返り	5 学習のまとめをする。  まとめの例 発表の目的に合わせて、他者の意見を取り入れ、見直せばよい。  6 本時を振り返り、次時への見通しを もつ。 (振り返りの視点) ・自分の学びや成長 ・解決したこと、しなかったこと ・解決に向けた方法や結果をどう生か せるか。  振り返りの例 調べたことをそのまま使うと、低学年には分かりにくいという意見は納得したので、資料から大切な部分 を簡単な言葉でまとめて伝えようと思う。事実だけでなく自分の考えも入れて聞き手に伝わるものになりたい。この発表を通 して、低学年にも届くように、食べられることのありがたさを伝えたい。	◇ 本時を振り返り、めあてに対してどのように解決し たか、自分の言葉でまとめるよう助言する。  ◇ 視点をもって振り返りを行うことで、よりよく課題 を解決し、自己の生き方を考えていくことにつなげる ことができるようにする。	○ 思③課題解決に向けて、 他者の意見を基に自分たち の表現を見直し、改善しよ うとしている。(ワークシ ート)

### （3）板書計画

作る 食べる 生きていく Five star project ☆思考・判断・表現 (他グループの改善点の採用の視点)

めあて よりよい発表にするためには、どうすればよいだろうか。

①最も伝えたいこと(食べられることへの感謝をもつ)が伝わる表現になっているか。  
②伝えたい相手(低学年)により伝わる表現になっているか。

起チーム テーマ	承チーム テーマ	転チーム テーマ	結チーム テーマ	まとめ
改善点 ・ ・	改善点 ・ ・	改善点 ・ ・	改善点 ・ ・	発表の目的に合わせて、他者の意見を取り入れ、見直せばよい。
理由 ・ ・	理由 ・ ・	理由 ・ ・	理由 ・ ・	振り返り
改善内容	改善内容	改善内容	改善内容	・自分の学びや成長 ・解決したこと、しなかったこと ・解決に向けた方法や結果をどう生かせるか。